

(意見シートを通じて後日提出された主な意見も含みます)

「(仮称)ミライ実現戦略2030」全般に関すること

豊田市らしさ

- ・ 豊田市の強みや個性にこだわって特化した計画がつかれると良い
- ・ 豊田らしさ、豊田市の特色を打ち出して、その基本に豊田市民の自治力、当事者性引き出し、新しいまちを豊田市民がつくっていく構想のしかたができるとうよい
- ・ 豊田市らしさや、前に向かっていくエネルギー、新たな提言が出ていないのではないかな。
- ・ 自治として、自分たちがまちを作っていくことが改めて問われてきているのではないかな。そのことと魅力づくりや産業の在り方、働き方がリンクする中で、豊田市らしい新しいまちの姿が見えてくる。その中で人々が生活している姿が見えてくるとよい。

広域連携

- ・ 産業中枢都市と言いながら豊田市での展開に完結している。多文化共生や都市部と山村部の共生など、先進的な豊田市の取組は、豊田市の中で完結するのではなく、広域で横展開する役割を明確に打ち出すような記載が必要ではないかな。

都市と山村

- ・ 豊田市の特徴は都市部と山村部が隣接していること。都市部と山村部を一体的にまちづくりしていく視点を入れてほしい。
- ・ 中山間地域においては、自分たちのことを自分たちでやっていくという地域自治を考えることが必要。また、都市部の方が中山間地があることがメリットだと思うような取組までできると良い。

子ども

- ・ 子どもを我々の地域づくりのパートナーと捉えると表現が変わってくるのではないかな。
- ・ 「社会的地位を高める思想より、自己実現を主眼としている」や「漠然と明るい将来が展望できないことが、結婚願望や出産願望を下げている」とあるが、身近の学生には社会的地位を高めたい、結婚もしたいと思っている学生も多くいる。多様性の時代では新しい価値観を得ることだけが多様性ではなく、今までの自己実現、社会的地位を高めたいと希望する人や結婚したい人をマイノリティにしないことが大切。
- ・ (学生は) つながりの期待感が高く、自分もつながることによってライフプランが広がると感じている点を興味深く感じる。
- ・ 全体を通じて、子どもが主語となっていることについて、方向性としては理解できるが、大人の問題が抜けてしまうのでは、という懸念もある。

ロジックツリー

- ・ 「初期アウトカム」について、行政として整備するのは行政の成果だが、多様な働き方の創出は、企業と労働者の関係で生まれてくるもので、行政の立場で生み出すのは難しいと思う。そのため、誰がという主語を整理する必要がある。
- ・ 「直接成果」はイメージできるくらいまで具体化できると、目標が目標に終わらずに取組として豊田市の中で行われると思うので、積極的にイメージと結びつける議論が必要。

「(仮称)ミライ実現戦略2030」主に取組方針①に関すること

学び合い

- ・ 多世代、交流の部分がもう少し出てくると見方が変わると思う。こどもを柱に置くのは賛成だが、多世代で何かを支えるときに、大人の立場からするとこどもに大人が支えられるという発想より、大人が背中・姿を見せるのが良いと思う。大人とお互いに活動したり共通の価値観を持つ中で、お互いにウェルビーイングが成立するとすれば、二者択一にならない。
- ・ 私たちは世の中のため、人のためになりたいという善の気持ちをもって生まれてきており、それを実現するために、一人一人違う能力を持っている。こども達にそのことを伝えて、知識、技術を与える、身に着けさせるのが教育で、その教育の機会や選択肢を与えるのが我々の責任。こども目線というのは、教育だと思う。生きる糧や術を与えるのが教育であり、それを与えるのは我々の義務、責任。環境問題と同じくらい大切だと思う。
- ・ 「こどもが多様な考え方・生き方に触れる」については、ある程度の学校の規模がないと難しいと感じる。地域の学校をどうまとめるか。あるいは、ネットワーク化でつなぐ環境でも良いのかということも考えていきたい。
- ・ 「こどもが多様な考え方、生き方に触れる」ところで、大人とこどもを分ける必要があるのか。こどもが多様というより、みんな多様のはずで、あえてこどもにフォーカスする意義が必要だと思う。
- ・ こどもを中心にし、年齢によらず多様な生き方や暮らしを選択できるということが重要とあるが、資料では、こどもから大人への直線的な発達のイメージを受ける。
- ・ 学び続けることの意義や可能性なども検討していけると良い。

(意見シートを通じて後日提出された主な意見も含みます)

「(仮称)ミライ実現戦略2030」主に取組方針①に関すること(続き)

「(仮称)ミライ実現戦略2030」主に取組方針②に関すること

つながり

・医療界において社会的処方という言葉が出てきており、薬を使わなくても、むしろ人間関係を深めたり、様々な活動でつながっていくことを経験したりする中で、自らのQOLが改善されていくことが起こると言われ始めている。

・若者が自己実現やつながりを強く求めていることが出ている。まちづくりミーティングで、大人と子どもがつながるという議論の中で、大人が子どもの「楽しい」を支えていくことで、子どもが主役になっていくという議論があった。地域に認められて自分がつながっている感覚が持てることによって、周りから自分の能力を引き出してもらえる。それが例えば、学生が求めている自己実現がなされるということにつながっていく。やはり、つながりは大切になるし、自分の生きる場所がしっかりあるということが大事。

・自分事化して自分で自治を進める住民が増えていくところの価値や可能性を検討しつつ取り込んでいけるとよい。

・中間成果を見ると地域共生社会という言葉が出てこない。豊田市で第5回地域共生社会推進全国サミットinとよたが開催され、その中で「とよた宣言」という宣言があったことから、「地域共生社会」をどこかに書いてほしい。

・豊田市が先駆的に取り組んできた、包括的な支援体制の施策などが、入ってくると思うが、あまりそれが見えないように感じる。

・子どもが幸せに暮らせられれば高齢者が幸せに暮らせるのか。資料から高齢者たちの幸せが見えてこないと感じる。

・子どもは地域で見てほしいといわれるが、親が見られないのに地域で見られない。子どもを主体に考えるなら親も真剣になってほしい。

・中山間の農地は非常に深刻で、耕作放棄地も多く担い手もない。さらに、農地だけならよいが、10年後には集落も高齢化、限界集落で人がいなくなるので、農的な生活ができる仕組みがあると良いと思う。

・自治区をはじめとした地域の様々なコミュニティーがお互いに協働して活動し相乗効果を出し合える、柔軟な体制づくりと発想の転換が必要と感じる。

経済

・令和になって、人口、労働力が目に見えて減ってきている。暮らす場所として、他の自治体に比べて豊田市は良いところだと思ってほしいが、それ以前に、働き場所として、働きやすい魅力のある職場環境を提供できるまちでありたい。一つ一つの企業が魅力ある職場を提供しないといけない。その先にこのまちで暮らすことに価値を見出して、いずれ人口流出が止まるかもしれない。

環境

・ロジックモデルの視点から地域経済の循環的な話が見えにくいと思う。むしろ関わりを重視して消費行動し、部分最適よりも全体最適していくということが出てくるといいと思う。

・脱炭素について、計画に基づきCO2を減らしていくが、経営者の方には、ピンチでもあるがチャンスでもあることを出せると良い。

・合成燃料の開発(新エネルギー)に対して豊田市がどうコミットするのか、豊田市らしい政策として議論したい。

・豊田市は多くの山林を抱えているため、域内でのカーボンフリー社会を実現できると考える。車のまちでありながらカーボンフリーは、街への愛着や自尊にもつながるのではないか。

その他

デジタル

総合計画審議会においても、紙の資料ではなく、デジタルで実施してみてはどうか。

支え合い

地域会議への諮問

第9次豊田市総合計画の策定に向け、同計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「（仮称）ミライ構想」のめざす姿や都市構造の基本的な考え方について諮問を行うとともに、意見交換を実施

- 期 間 令和5年8月3日（木）～10月3日（火）
- 参加者 ○28地域会議委員（合計470名） ○豊田市長又は副市長

（参考）地域会議について

平成17年の市町村合併を契機に、それぞれの地域事情の違いをまちづくりに反映できるようにするため、地域自治システムを導入し、都市内分権の推進を図っています。地域自治システムの柱の一つである地域会議は、地域住民の多様な意見の集約と調整を行うための審議機関として市内28地区に設置しています。

（主な役割）

- ・市長からの諮問事項に関する審議と答申
- ・地域課題解決に向けた市長への提言



■今後の予定

○令和6年3月頃
28地域会議の答申を受け、答申等に対する市における検討結果を報告。書面にて「（仮）ミライ構想（案）」及び「検討結果報告書」を地域会議へ送付予定。

地域会議からの答申

各地域会議が、諮問を受けた「第9次豊田市総合計画」に掲げる「（仮称）ミライ構想」について、市長に答申を行うとともに、各地域会議の委員と市長又は副市長が、各地域のまちづくりの基本的な考え方などについて意見交換を実施

- 期 間 令和5年12月7日（木）～令和6年1月31日（水）※実施中
- 参加者 ○28地域会議委員（合計470名） ○豊田市長又は副市長

地区名	委員数	日 程	時 間	場 所
旭	15	12月7日（木）	午後6時30分～	旭交流館
梅坪台	12	12月12日（火）	午後7時～	梅坪台交流館
井郷	20	12月13日（水）	午後7時～	井郷交流館
松平	16	12月13日（水）	午後7時～	松平交流館
朝日丘	15	12月14日（木）	午後6時30分～	朝日丘交流館
美里	17	12月14日（木）	午後7時30分～	美里交流館
猿投台	20	12月14日（木）	午後7時～	猿投台交流館
前林	19	12月15日（金）	午後7時～	前林交流館
足助	17	12月18日（月）	午後6時30分～	足助支所
崇化館	16	12月19日（火）	午後6時30分～	崇化館交流館
高橋	15	12月19日（火）	午後7時～	高橋交流館
益富	19	12月20日（水）	午後6時30分～	益富交流館
末野原	15	12月20日（水）	午後7時45分～	末野原交流館
稲武	16	12月21日（木）	午後7時～	稲武支所
猿投	19	12月21日（木）	午後7時～	猿投北交流館
豊南	18	12月21日（木）	午後6時30分～	豊南交流館
小原	15	12月26日（火）	午後7時～	小原支所
浄水	11	1月10日（水）	午後7時～	浄水交流館
上郷	16	1月16日（火）	午後7時～	上郷交流館
逢妻	17	1月17日（水）	午後6時30分～	逢妻交流館
若園	20	1月17日（水）	午後7時～	若園交流館
下山	15	1月18日（木）	午後7時～	下山交流館
石野	17	1月23日（火）	午後7時～	石野交流館
竜神	18	1月23日（火）	午後7時～	竜神交流館
藤岡	17	1月25日（木）	午後7時～	藤岡交流館
若林	20	1月26日（金）	午後7時～	若林交流館
藤岡南	17	1月30日（火）	午後7時～	藤岡南交流館
保見	18	1月31日（水）	午後7時～	保見交流館

まちづくりミーティング『みんなで考えるミライの豊田』

開催日時

令和5年11月11日（土） 午後1時30分～午後4時

参加者

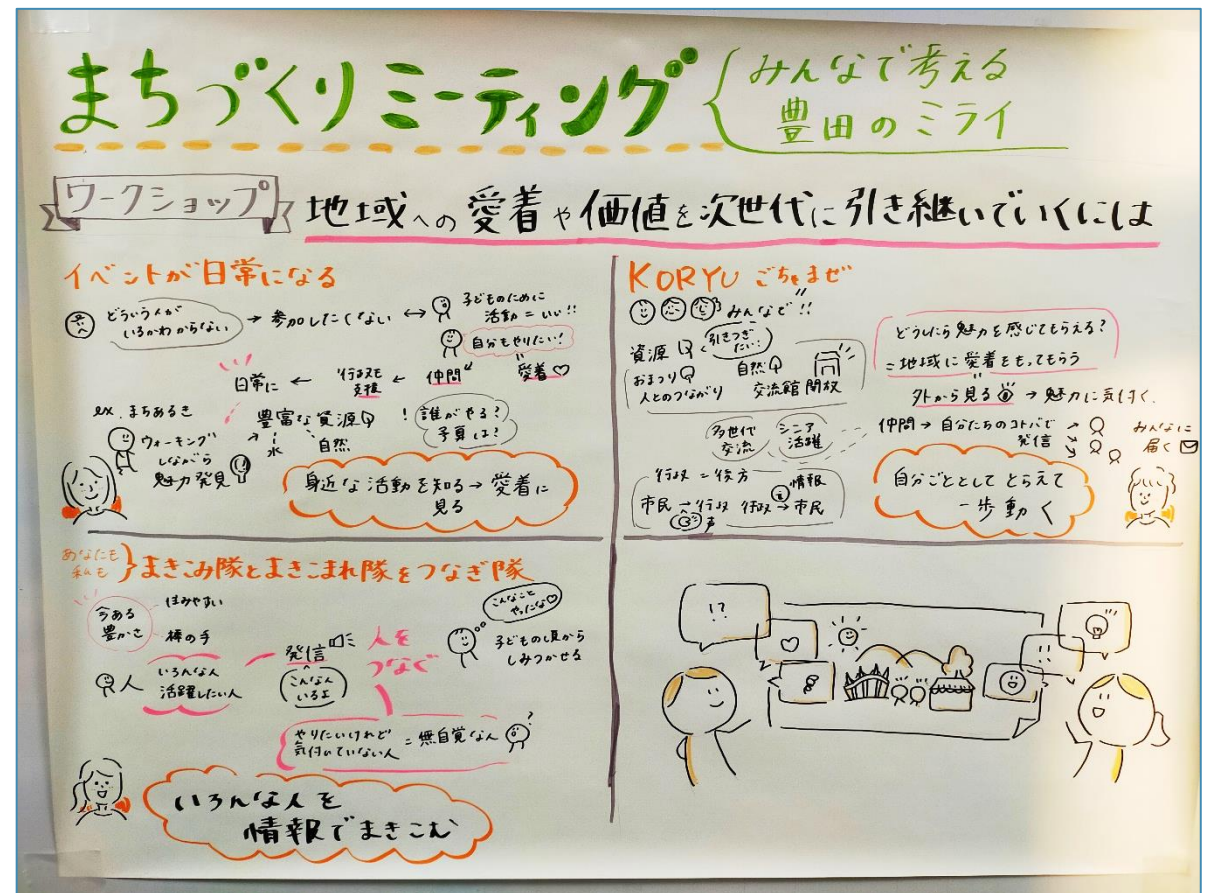
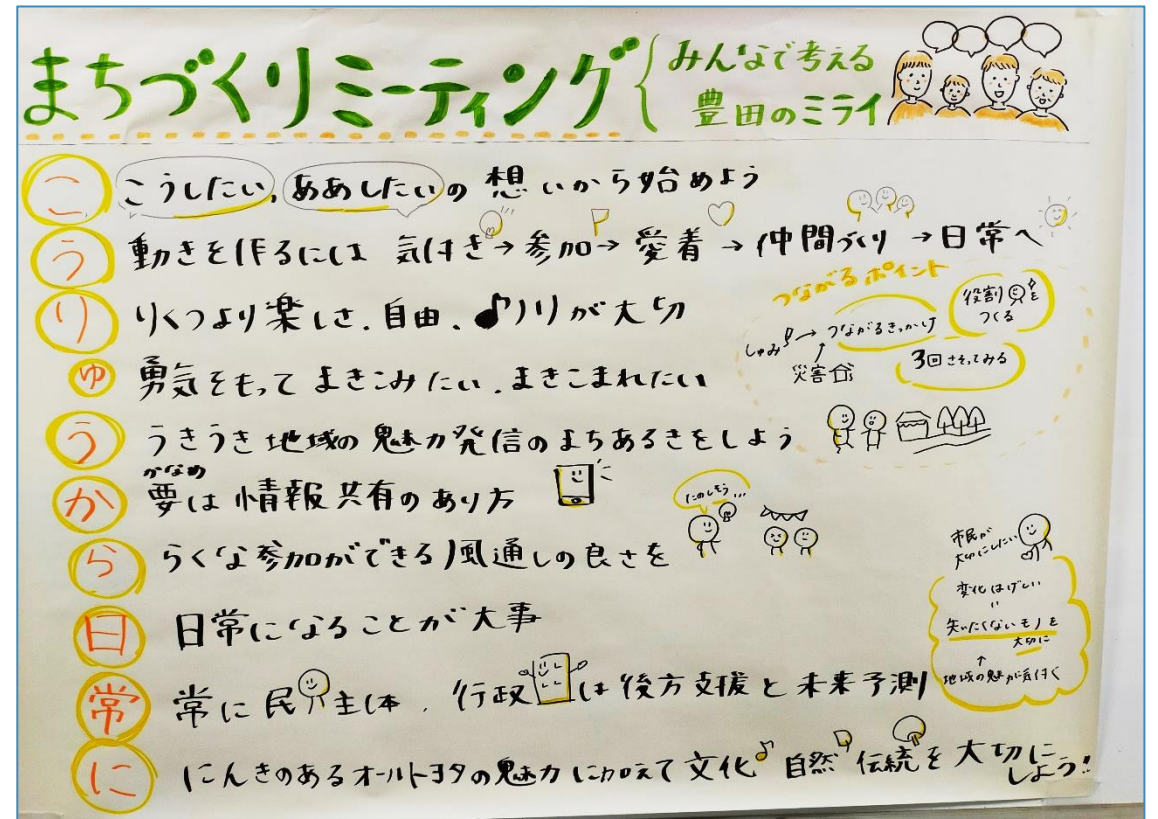
主に子育て世代（30代～40代）を中心にした市民 11名

テーマ

地域への愛着や価値を次世代に引き継いでいくには

【主な意見】

- ・引き継ぎたい地域の資源は、豊かな自然やお祭りなど伝統、文化、地域のつながり。
- ・身近なまちあるきや、外から見ることで地域の魅力に気づく場合もある。
- ・こどもの頃から身近な活動を知ること、見ることで愛着につながる。
- ・自分事として捉えて一歩動くこと、自分たちの言葉で発信することが大切。
- ・まきこみたい人と何かしたいが気付いていない人（無自覚な人）を情報発信でつなぐ。
- ・関心を持ちやすい趣味や災害をつながりづくりのきっかけに、3回誘ってみること、役割を作ることがつながるポイント。
- ・変化の激しい社会だからこそ、失いたくないもの、市民が大切にしたい地域の魅力に気づくことができる。
- ・常に市民主体で、行政は情報を届けることなどの後方支援と未来予測が役割となる。



（主な意見など、詳細は市HPに掲載）

③愛知工業大学

■開催日時

令和5年12月11日（月）午後1時～2時30分

■参加者

愛知工業大学に通う都市計画を学ぶ学生17名（3～4年生）
前半の豊田市の特徴や市政についての市長講演は、学生80人程度が聴講

■テーマ

- ①どんなまちに住みたい？—理想の住環境、みんなが暮らしたいまちについて—
- ②どんな「つながり」を求めている？—まちのなかでチャレンジしてみたいこと—
- ③どんなライフプラン・働き方が理想？—将来の暮らし方や働き方について—

【まとめ】

- ・ 建築学科で都市計画を学ぶ学生が中心であり、**都心の再開発におけるにぎわいづくりへの提案など、大学での学びをまちづくりに生かしたいという意見**が見られた。
- ・ 中心市街地の広場などで、公共空間の運営に関わる活動や、市内でものづくりをこどもに教える活動をしている学生も多く、**具体的な活動を通じた実感や課題意識**についての発言が見られた。
- ・ 「日本は子育てがしにくい」という報道等に漠然とした不安を感じる学生の意見もあった。

④日本赤十字豊田看護大学

■開催日時

令和5年12月14日（木）午後1時30分～3時

■参加者

日本赤十字豊田看護大学に通う学生17名（2～4年生）

■テーマ

- ①どんなライフプラン・働き方が理想？—将来的な暮らし方や働き方について—
- ②どんなまちに住みたい？—住環境について—
- ③「つながり」についてどう思う？—まちづくりでやりたいこと・やれること—

【まとめ】

- ・ 現場実習を含め看護を学ぶ学生であり、病院での勤務や将来的な国際支援、高度医療への従事など、**キャリア形成**に具体的なイメージを持つ学生が多く見られた。
- ・ 一方、**結婚や子育てがあまり前向きにイメージできない**との発言もあった。
- ・ 住環境について、**治安の良さや緑豊かな自然や公園、病児保育等の預かり施設など子育て環境の充実**を求める意見があった。
- ・ 自身が病院や子育て施設でのイベントで音楽演奏の活動をする中で、**多世代のふれあいの大切さを感じ、つながりの機会を増やしたい**という発言もみられた。



豊田市子ども会議

■開催日時

令和5年12月10日（日）午後1時～午後4時

■参加者

豊田市子ども会議 こども委員41名、大学生サポーター10名

■テーマ・内容

「まちのめざす姿」を考えるワークショップ

令和5年度から2年間かけて策定する「第9次豊田市総合計画」「（仮称）こども・若者総合計画（第4次豊田市子ども総合計画）」の策定に向け、まちのめざす姿を考えるワークショップ及び子ども委員が活動等を市長に伝える報告会を開催。

【まとめ】

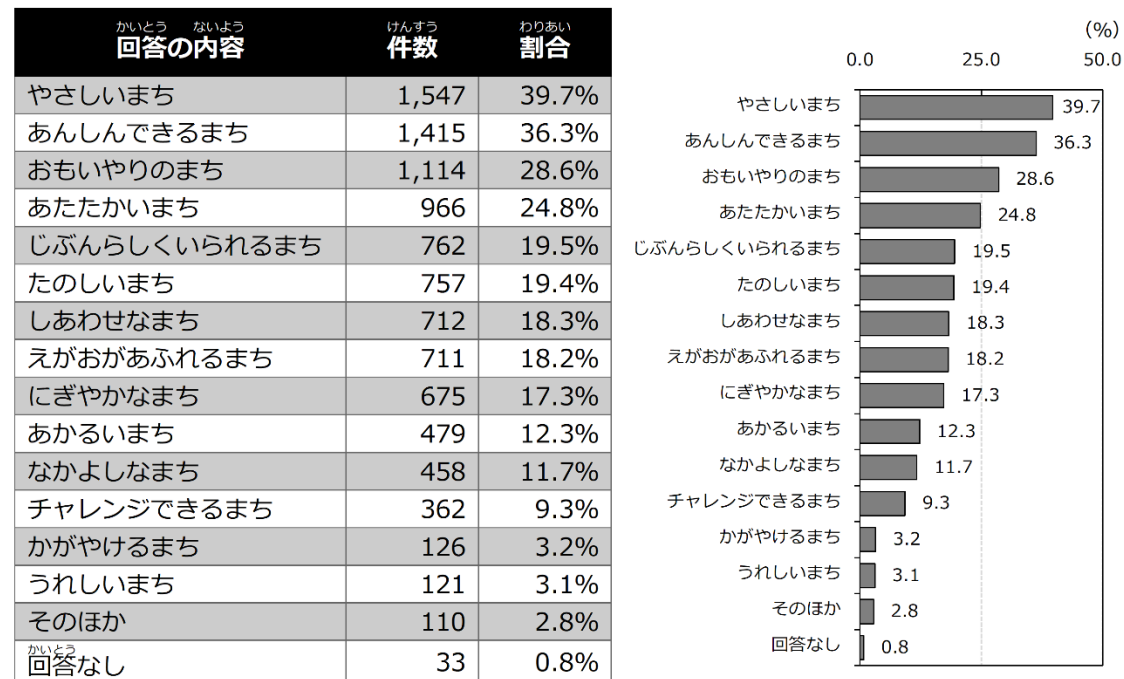
・ワークショップでは、こども等へのアンケートで上位の「やさしいまち」などの項目について意見交換をした上で、こどもたちが思う「まちのめざす姿」をまとめた。

こどもたちが考える「まちのめざす姿」

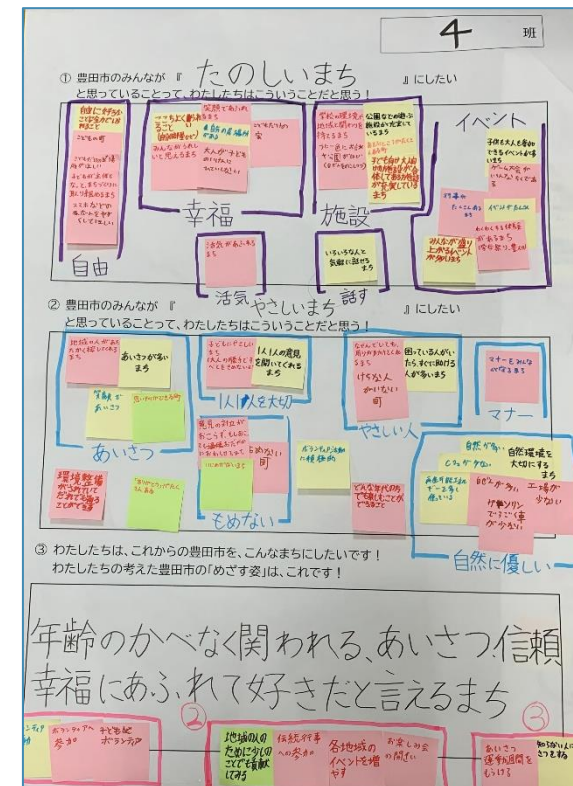
- みんなが笑顔で、世界で一番楽しく自由な町とよた
- 自分らしく子どもも大人も楽しいまち
- 年齢の壁なく関われる、あいさつ、信頼、幸福にあふれて好きだと言えるまち
- 笑顔で自分らしくいられる町とよた
- いじめがなく、笑顔があふれる明日が楽しみなまちとよた
- 思いやりからつながるみんなの居場所（とよた）（大学生サポーター班）

とよたし
豊田市を **どんなまちにしたいですか**（3つまで選択式）

●「やさしいまち」がいちばん多く、そのつぎに「あんしんできるまち」や「おもいやりのあるまち」となっています。



子ども:4,500名、若者:3,000名へのアンケート送付結果（速報値）



※「豊田市子ども会議」について

豊田市子ども条例第20条に基づき設置。参加する小学5年生から高校3年生までの子どもを「子ども委員」と位置づけ、子どもにやさしいまちづくりに向けた話し合いや活動の実践に取り組んでいる。

1 全体像

「市民と市民」「市民と行政」の対話を通じ、市民の気づきや主体的な行動につなげられる「共働による計画策定の場」づくりをめざす。

目的	取組		ターゲット	実績
幅広い市民との対話	デジタル 市民意識調査	実施完了	市政に対する評価やまちづくりへのニーズを幅広く調査 ・無作為抽出された市民を対象にインターネット及び紙によるアンケート調査を実施。	全市民 (無作為抽出) 4,036人 ※有効回答数
	新規 デジタル とよたシティボイス	実施中	計画の方向性に対する幅広い意見集約 ・計画策定の方向性に対する動画を作成し、市HP で意見提出できるフォームを作成。	全市民 —
	デジタル パブリックコメント・Eモニター		計画素案に対する幅広い意見集約 ・計画素案を公表し、素案に対する意見を募集。	全市民 —
	新規 デジタル (仮称) 中間報告会		策定状況の共有と意見交換のための中間報告会 ・第9次豊田市総合計画の策定状況について市民等への周知及び意見交換を行うとともに、今後のまちづくりへの参画を促す。	全市民 —
地域との対話	地域会議への 諮問・答申	実施中	「(仮称) ミライ構想」等に対する地域の意見聴取 ・豊田市地域自治区条例に基づき「(仮称) ミライ構想」等に対する諮問・答申を実施(28地域会議で実施)。	地域会議委員 470人
個別テーマに対する意見交換	新規 まちづくりミーティング	実施完了	計画の方向性に対する市民相互の意見交換 ・共働でまちづくりを考える機会として、市民相互の対話形式による意見交換を実施。	全市民 (若者、子育て世代等) 延べ31人
	新規 学生との意見交換会	実施完了	まちづくりに対する学生の意見聴取 ・市内の大学及び高等専門学校に通う学生との意見交換を実施。(実施校：愛知工業大学、中京大学、豊田看護大学、豊田高専) ・市内高校でのまちづくりの課題研究講座(実施校：豊田北高校)	大学生・高専生 ・高校生 (市内在住・在学) 約500人
	関係団体等との 意見交換	実施中	計画の方向性に対する関係団体への意見聴取 ・「こども」分野を始めとした取組方針のテーマに沿って、市民活動団体、経済団体、外国人等との意見交換を実施。	各種団体等 —

2 スケジュール

R5 (2023) 年度				R6 (2024) 年度			
～6月	～9月	～12月	～3月	～6月	～9月	～12月	～3月
審議会 (5/31)	審議会 (7/24)	審議会 (11/20)	審議会 (1/22)	審議会 (5/22)	審議会 (8/19)	審議会 (10/31)	公表
	地域会議 諮問 (8～9月) 答申 (12～1月)						
市民意識調査 (6～7月)		シティボイス (10～3月)		(検討中) 中間報告会 (6月)	パブコメ・Eモニター (8～9月)		
	まちづくりミーティング (10/31,11/11)						
	学生との意見交換会 ●高専(8/16) ●中京大 (9/20) ●愛工大(12/11)、看護大 (12/14)						
	関係団体との意見交換						